

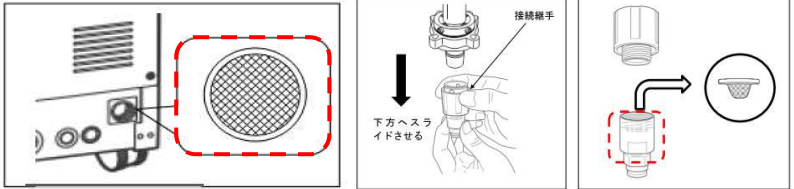
装置管理者のための 純水・超純水装置 点検項目一覧表



● 日常点検

1	水質（比抵抗、TOC値）	使用する前に必ず水質（電気伝導率・比抵抗）とTOCの値を確認しましょう。
2	ホース、チューブ、コネクタ、採水ノズルに汚れはありませんか？	長年使用を続けていると経年劣化による汚れや傷みがみられることがあります。放置しておくと水質悪化や漏水の原因となります。チューブ交換の際は販売店またはご購入先にご相談ください。
3	ポンプの音はいつもと変わりませんか？	チューブやフィルターの詰まりによる異常、空回りの早期発見につながります。ポンプの故障の前触れを確認することができます。
4	水漏れはありませんか？	装置の中や背面を確認して水漏れをしていないか確認しましょう。ポンプの振動でまれにチューブの継手が緩くなったり、チューブが装置内でこすれることで水漏れが起こることがあります。

● 定期点検

1	消耗品の交換期限を確認してください。	交換期限を過ぎると、以下のような事象を引き起こします。 活性炭：RO膜の早期劣化、給水圧力の低下 RO膜：イオン交換樹脂カートリッジの早期劣化 イオン交換樹脂：水質の悪化 UVランプ：殺菌効果減少による菌の発生、TOC値の上昇 エアVENTF：二酸化炭素や有機性ガスによるタンク内純水汚染
2	給水元のゴミ取りメッシュ（ストレーナー）を線譲位してください。	給水チューブやジョイント接続接手の中には、原水のゴミ取り用にメッシュが取り付けられています。このメッシュにゴミが詰まると給水圧力低下で装置が停止します。 <装置背面> <接続接手>  ※頻繁に汚れが詰まる場合は、前処理フィルターの設置を推奨します。水道管内に鉄さびなどが多く含まれると考えられます。

● 長期休暇前、長期運転停止前の対応

1. 装置の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜きましょう。
2. タンク内をカラにしましょう。
長期間タンクに水を張ったままにしておくと菌の繁殖や異臭の原因となります。
採水コックorドレンプラグから水を抜きます。
※採水コックから水を抜く場合、最後まで抜ききれないことがあるのでご注意ください。
※ドレンプラグの閉め忘れには十分ご注意ください。
3. 配管内も地域や季節によって凍結や菌繁殖の恐れがあります。
心配であれば販売店へ配管水抜きを依頼しましょう。

● 運転再開時の対応

十分な循環運転と処理水ブローを実施したのちに使用してください。

● 移設時の対応

販売店またはご購入先へご連絡ください。